

令和7年度 第1回北九州市社会教育委員会議

- 1 日 時：令和7年5月16日（金）10：00～12：00
- 2 場 所：生涯学習総合センター 3階ホール
- 3 出席者：委 員 他 9名
 事務局 総務市民局長 他 17名
- 4 議題、議事の概要
 - （1）総務市民局長あいさつ
 - （2）議題
 - ア 令和7年度 生涯学習推進計画の主要事業について（取組予定）
 - イ 令和7年度 社会教育関係団体補助金について
 - ウ 次期「北九州市生涯学習推進計画」について
- 5 主な質疑応答、意見等

議題（ア）令和7年度 生涯学習推進計画の主要事業について（取組予定）

事務局：≪事業について説明≫

委 員： 私なりに見る観点としては、1つ目は絶対金額が大きいもの、2つ目は昨年度から予算の増減幅が大きいもの、3つ目は「学び」と「活動」の好循環という目的に沿った活動につながる施策がどのようなものがあるか。

1つ目の絶対金額が大きいものについては、8～9ページの美術館、博物館、科学館等の箱物があり入館者を募るものが絶対金額が多いと思っているが、固定費としての減価償却や人件費等も入っているのか。他の施策はソフト的な費用が多く、事業を比較するには固定費は省いて考えたほうがいいのではないか。

2つ目が、増減幅が大きいものについて、例えば、3ページの8番「年長者研修大学校」、これもやはりそれなりの箱があってプラス1,400万円ということだが、ほかの事業に比べてプラス金額が大きい要因とは何なのか。9ページでいくと、29、31番が両方、プラス約1,500万円、2,000万円と非常に増減額が大きいので、ここも今年なりの施策でそれだけ1,000万円単位でプラスされているのかどうか。

3点目が、「学び」と「活動」の好循環、要は活動につながる場所の施策について、5ページの14番「大学生×市民センターによる地域共創プロジェクト」は初年度ということで52万円の予算が付いているが、この内容はどういう費目が予算に入っているのか。学生さんの交通費なのか、もっと施策的な、本質的なところで、いろいろなものを買

うとか活動するための予算なのか。

あと、11 ページ、38 番「地域力アップセミナー」の一番右の強化する取組み予定について、ファシリテーション力を強化する内容にするとのことだが、このファシリテーション力というのは実践を伴うからスキルアップもするし、活動地域自体のレベルアップもすると思っていて、ここのファシリテーション力を強化するのが非常に大事だと思っている。実際にファシリテーション力を強める研修をすることで実践にどうつながったかという、取組結果をほかの事業、ほかの場へのフィードバック、水平展開も非常に期待したい。

事務局： 予算額については、総予算になっているので、固定費等も全て含めた額となっている。個別の事業については、個別の担当課長から説明するが、先に大学生の部分を併せて説明する。

大学生の事業については、費目は講師等と呼ぶ際の報償費と、何か事業を行うために物品を買うときの需用費の2つである。交通費等には充てられていない。

事務局： 「年長者研修大学校」について、5 年度、6 年度の予算や決算と比べて7 年度の金額が大きい要因として、毎年 800～1,000 人くらいの受講者がおり、学んだことを自分たちや地域の活動として生かしていただきたいがうまくつながっていないという現状の課題があり、7 年度からの講座はその課題に力を入れている。

また、北九州市の高齢者は、ほかの政令市と比べると就労率が少し低いので、啓発の取組みや、DXの推進のため講座を見直したことで予算額が増えているが、大きくは人件費と光熱費のアップである。

事務局： 博物館については右に補足で書いてあるが、やはり大型特別展を実施するので、そちらの金額もかなり入っているのではないかと。

議長： ファシリテーションについてはよいのか。

事務局： 委員からご意見を頂いたので、頑張って進めていきたい。

委員： 高齢者大学校の話があったように、人件費や光熱費、減価償却など、その建物や箱物の運営に関わるのところ、もともと固定費としてかかっているところも込みで入ると、今年注力している施策が曖昧になる、予算だけを見てしまうとそう見えてしまった。

議長： ほかに意見、質問はないか。

委員： 5 ページの 14 番について、特に新規ということで注目している。大学が門司区にはない。連携を取っているといっても、実際は小倉南区と

か小倉北区、旦過市場など、限られている。これから進められるときに、どこの区とか、割り当てとか、バランスを取っていただきたい。

もともと門司にカボチャドキア美術館というのがあり、昨年北九大の先生が学生さんと一緒に2日間くらい、田川の石炭や平和についての催しをされた。結構地域の住民の方に呼びかけたが、一部の人しか来なかった。市民センターでもう少し声を掛ければよかったと、私も参加して思った。

だから、こういう事業をするのに学生が、門司区の場合特にいない。学生と住民をつないでいくというプロジェクトはとても大事だと思う。ぜひ、今度企画されるときに、そういうものを踏まえてバランスよくしていただけると、もっと素晴らしいと思った。

事務局： 今は北九大なので小倉南区もしくは小倉北区が中心ということになる。実はこの事業は大学の授業の一環になっているので、遠方になると移動時間だけでもかなりかかる。ただ、やはり市内全体にという声も聞いている。今後、その辺も含めて、幅広くできるように事務局としても努力していきたい。

議題（イ）令和7年度 社会教育関係団体補助金について

事務局： ≪概要について説明≫

議長： 意見を伺う前に、関係団体の皆様に、一時退席をお願いする。

≪関係団体委員退室≫

委員： 減額の理由は基本的にはお子さんの数が少ないからということだが、どのように意思を持って予算を配分するかというのが非常に大事。お年寄りの事業にシフトしているということではないと思うが、予算を考える上で、若者にはシフトしていきたい、これからの「稼げるまち」とか「安らぐまち」を含めたところのビジョンを基に考えたときに、そういった視点はぜひ、頭数は減っているとはいえ、そこに注力、単価なりシフトしていくという思想は大事ではないかと思った。

事務局： 貴重なご意見なので、私どもも含めて関係課にもきちんと連絡したい。

議長： ほかに意見がないようなので、退席いただいた委員の方に戻っていただく。

≪関係団体委員入室・着席≫

事務局： 事前に知らせしていたとおり、議題３に入る前に関係各課の職員に退室をお願いします。

これから議題３について説明とグループワークを行うので、議長および事務局の職員に、席の移動をお願いします。

≪関係各課職員退室、議長および事務局職員の席移動≫

議題（ウ）次期「北九州市生涯学習推進計画」について

事務局： ≪計画について説明≫

委員： ７ページ、（２）「多様性を尊重した社会」というところの表記で、「北九州市全体で多様性を認め合い、外国人との共生を進める」とあるが、具体的に多様性の中身を書いているのが、この３行の中で外国人だけというのが少し気になる。「外国人をはじめとする多様性を認め合い、共生を進める」などとしたほうがよいのでは。

事務局： 今年２月の会議のグループワークで頂いたところをそのまま記載している。もちろんご意見としては外国人の方だけをイメージしているものではないと思う。

議長： １２ページのウェルビーイングの深化について、個人の幸せが世界に広がっていくという一方向になっているが、地域のこととか社会のこととか、いろいろ活動したものがまた個人の幸せにつながるということにもなるので、矢印は一方向ではなくて双方向ではないか。

事務局： ご指摘ありがとうございます。

議長： 社会教育士について説明したほうがいいのではないか。

事務局： 社会教育士という名称ができたのは令和２年で、今、全国の、主に大学で社会教育主事講習という社会教育主事になるための資格を得る講習が毎年開催されている。福岡では九州大学が毎年８月に集合形式で社会教育主事講習を開催している。

社会教育主事になるには、各地方公共団体の教育委員会からの発令が必要。基本的には各地方自治体は教育委員会に１人社会教育主事を置かないといけない。これまで社会教育主事講習を受けたが教育委員会から発令されていない人は、何も名乗るものがなかった。専門的な社会教育に関する学習をしている人をきちんと社会的にも位置づけて活躍いただくために、「社会教育士」という称号を出すようになった。

現状としては、まだ制度が始まったばかりなので、今、まさにどんどん増えていっている状況。今後、社会教育士という人たちが社会でどう

いった活躍をしていくかというところはこれからになる。

市民センターの館長の中にも、主事講習を受講した方が結構いて、その方たちも「自分は社会教育士です」と名乗れる。

全国でまだ 4,000 人くらいだったと思うが、北九州市にいる社会教育士という人材とぜひ今後連携して、ご活躍いただけるような機会をどんどんつくっていききたい。

事務局：《グループワークについて説明》

《各グループごとにグループワーク》

事務局： 各グループ 3 分程度に凝縮して共有するようお願いする。
作業の間、社会教育の盛んな島根県益田市の事例を紹介。

事務局：《B 班の発表》

今回の計画について、とても光が見えた、北九州が明るく楽しいまちになっていくというイメージを描ける、ここを目指していけばいいということが見える計画になっている、という意見があった。

ただ、それに参加できない人たちはどうするかということが一番重要な課題ではないか。今の市民センターの在り方についても、既存のグループなどがあって新しい人が入っていけないという現状がある。でも、これから未来を創る人をどう育てていくのか、全体をどう底上げしていくのかということを考えていく必要がある。そして、地域には出てきていないが今後活躍できる人材や、これから何かやっていきたいという人を拾っていくキーマンが必要。それは市民センターの館長だけではなく、市民も、肩書きや資格がなくてもできるのではないか。そういった力を育てていくこと、声を掛けて場に引き出していく力を育てていくような講座も必要ではないか。

とても大きな方針、羅針盤というもののだが、大きく広げすぎててもできないことも多くなってくるので、どう精査するか、まず 5 年間にどこに絞って取り組んでいくのかというのを考えていく必要があるのではないか。

事務局：《A 班の発表》

15 年先を見据えての方向性ということで、5 年ごとの内容はどのようになるのかイメージが湧かないという声もあったが、5 年ごとに数字に縛られずに進めていける、世の中の状況に合わせて見直ししながら重点施策のウエイトのかけ方や予算についても柔軟に対応していける等、大変良いのではないか。

A 班ではウェルビーイング、コミュニティ・スクール、市民センターという言葉が大変たくさん出た。コミュニティ・スクールについては、校長先生がいらっしゃったので、北九州市型についてご説明いただい

た。これからしっかり情報共有しながら進めていっていただければいいのではないか。

また、学びたい人は情報をしっかり取って学んでいくが、高齢化や固定化しているので、そこに参加できない人、していない人を今後どのように引き込んでいくのかということは大変大切ではないか。

目指すまちの未来についてというところで、学びっぱなしではなく、学んだ人が活動する場がもっともっとたくさんあれば、その活動を見た人たちが学ぶ側に回っていく、そういう学びの循環がしっかりできていくのではないか。

事務局：《C班の発表》

全体的なプランとしては、大体良いのではないか。言葉が少し硬いという意見もあった。

このプランができた時に、住民の理解や、どのように地域に結びつけていくかということが重要ではないか。伝え方の工夫、市民に分かりやすい表現が必要、映像などを使っていろいろな方法で伝えていくことも必要。

15年先の未来というと、ほとんどデジタルが使いこなされているだろうが、今、この5年を考えると取り残されている人たちもいる。スマホなどを使って学ぶ機会もどんどん増えているが、個人の学びが深まっていったときに、それをアウトプットして、コミュニティのつながりなどにつなげていくというところは大変重要であるが、集まるだけでできていたことが、デジタル上でとなるとハードルが上がってしまうので、その辺をしっかりと考えながら推し進めていくというところが大事である。

多世代というところを念頭に、学びと活動を続けていくということ、集まる場をどのように担保していくかというところを忘れてはいけない。学んだ人が、団体に入っていないと学びを活用できない、活躍の場がないというところは、やはりなくしていくべき。学習の場からつながっていくところを一つずつつなげていって、それをつなげるリーダー的な存在の人も大事で、いかに人材を育成していくかということも重要である。

事務局： 各グループの皆さんからご報告いただいたものを、これから次期推進計画を具体化していく中でご意見を反映させていきたい。

議長： 全体的に、事務局から示した内容が、大体こういう感じでいいという意見かなと思う。意見を次期推進計画に反映させていきたい。